

【地域づくりのあり方検討会中間報告】

意見

=委員からの意見=

- ・地域ごとの「暮らしのものさし」を、地域で話し合う事が大事。
- ・価値観が多様化する中、変化にあわせた地域づくりが必要。
- ・役場や大学の先生ではなく、自分たちで地域について考えるべき。
- ・「なぜ、今のままでいけないのか？」「今変わらないと、将来どうなるのか？」を一人一人が考えることが重要。
- ・自治会という組織が本当に必要なのかを考えるべき。
- ・行政は「地域にやらせる」を繰り返し都合よく使って来たのでは？
- ・役場としても「自治会の役割」を考えるべきでは？
- ・転入前の自治会は、ごみ処理、共同駐車場の管理など、暮らしの最低限の互助の部分を担当していたが、金ヶ崎町はイベントや組織が多すぎると感じた。
- ・自治会や老人クラブなどによるボランティアは限界が来ている。

- ・自治会長だけでなく、地域を変えようとする仲間作りが必要。
- ・会長や役員が一定程度の年数をやれる仕組みが必要
- ・総会は年配の方が中心だが、次を担う若い人の意見を大事にしたい。
- ・農業の世界も、40歳代・50歳代が中心に将来を考える必要がある。
- ・自治会行事の参加者は、同じ顔ぶれで40年間変わっていない。
- ・若い世代も自治会などの地域活動に興味を持つ必要がある。
- ・若い世代も忙しく、今の仕組みでは地域の事までできない。
- ・若い世代に住んでもらうためには、若い人の価値観を認める地域側の変化が必要。
- ・社会問題などを考える「若者会議」のように若者同士で話し合う場を作りたい。
- ・今の自治会の総会、役員会の仕組みでは若い世代は参加しにくい。仕組みを変えていかないといけない。

- ・地区センターや役場の行事が多く、地域の事を考える時間がない。
- ・世帯数が少ない自治会では、出来る事の限界がある。他の地域との連携も考えなければならない。
- ・自治会長と行政区長の兼務は見直すべき。
- ・自治会長になると年間200回を超える仕事。このままでは担い手がいなくなる。
- ・自治会長になると、日赤などの役職に自動的になる仕組みはおかしいのでは？
- ・「イベントに7人参加して下さい」と文書がくるが、動員ではないのか？広報にも記事を載せているならば文書は不要。魅力があれば参加する。
- ・学校の組織も増えたが違いが分からない。役場の行事、各種団体の行事も含めて全体での整理が必要。
- ・様々な団体があるが、今の時代にこのくらいの肩書がほしいのか疑問である。

- ・高齢者の独り暮らしが増え、誰がどの程度支えるのか考える必要がある。
- ・幼稚園の統合の話もあるが、地域と子ども達の関係性も考えないといけない。

=ヒアリング結果などによる意見=

- ・区長報酬が周辺の自治体より安い。区長報酬分は地域活性化委員会への補助金に回したと説明されたが、活性化委員会が地域に必要なのか？
- ・自治会への補助金は一律5万円となっているが、人口等による補助率にすべきでは？
- ・自治会の負担が大きいのではなく、自治会長個人の負担が大きい。

- ・自治会の運動会は人が集まるが、自治会連合会の運動会は選手が集まらない。
- ・自治会では人口が少なくて行事ができないので、自治会連合会の運動会は必要。
- ・自治会の運動会はやめて、軽スポーツ交流会に変えた。
- ・地区センターと自治会連合会の事業の区別があいまい。
- ・これまでの「食べた、飲んだ」の地域づくり、生涯教育から課題解決型の地域づくり、生涯教育に変えるべきで、地区センターの役割も見直しが必要。
- ・若者などの人材育成は、中央センターや地区センターで取り組めないか？
- ・具体的にどの行事をやめるのかという議論が必要。

- ・これからの大きな課題は高齢者対策。見守りや交通対策、買い物支援などが必要だが、誰がどこまでやればいいのかわからないし、専門性もない。
- ・ゲリラ豪雨や土砂災害などへの対応が必要で、防災訓練を定期的実施したい。
- ・自治会長と民生委員の連携はこれから必要になってくると思う。
- ・小学生、中学生を地域でどう育てていくかを考えていかなければいけない。
- ・役場内部の連携を進めてほしい。負担を減らす必要があると中央センターが言っても、他の課から動員の文書が来ている。

方向性

(1)

自治会の役割を考える

現在の地域課題や住民の価値観の多様化などの現状を踏まえ、これからの自治会の役割について検討する。

(2)

様々な世代の参加による地域づくりを進める

将来に責任を持つ、若い世代や女性の声を反映するための仕組みや支援の有り方考える。

(3)

自治会の省力化を考える

人口減少や高齢化、価値観の多様化など、時代が変化する中で、自治会行事や組織機構、各種団体の目的を再点検し、身の丈に併せた自治会の省力化を進める。

(4)

自治会連合会・地区センターの役割を考える

自治会の人口規模や地域課題が異なる中で、自治会連合会や地区生涯教育センター事業が負担になっている地域が出てくることから、自治会連合会や地区生涯教育センターの役割の見直しを進める。

具体案

自治会

役場

・自治会の役割について、地域内で話し合う機運を盛り上げる。

・より多くの住民の声を聞き、本来の自治会の役割について話し合う場を設ける。

・必要に応じて具体的な活動の見直しに着手する。

・若い世代や女性の声を反映できるよう、総会や行事の開催方法等を見直しを行う。

・それぞれの世代の育ってきた時代背景や多様化する価値観を理解し合える地域を目指す。

・次世代を育てる視点で、自治会に限らず、若い世代が主体的に関われる機会を創出する。

・地域で負担になっている事業、見直しが必要な事業がある自治会は、それぞれの地域の身の丈に併せた見直しを進める。

・これまで実施してきた事業の中から、自分たちの体力に応じて、真に大切な地域の暮らしを守るための事業を、さらに選択する機会を作る。

・行事を減らすため、地域全体で不要な行事を整理する機会を設け、役場や各種団体が主催する行事等については、地域からも提案を行う。

・人口格差の拡大や価値観、地域課題が多様化する中で自治会連合会の役割の見直しや、自治会連携について検討する。

・人口減少等により、単独の自治会で出来なくなる事、他の自治会と助け合う事で効果的に取り組める事業は地区センターを活用して話し合いの機会を設ける。

・行政主導で整備してきた自治会や各種団体の全体的な整理と自治会の役割について整理する。

・地域が話し合いを行うための学習機会や話し合いの支援を行う。

・地域が課題解決等に取り組む際の学習機会や経済的支援の仕組みを作る。

・役場や地区生涯教育センターにおいて若い世代を対象とした場づくりや、団体育成の機会を設ける。

・様々な年代を交えた話し合いの場や情報発信の機会を設ける。

・自治会に限らず、若者や女性が活動しやすいように、学習機会や、経済的支援の仕組みを作る。

・区長配布の削減、自治会長と行政区長の兼務の見直しを行うとともに、各種委員会の委員は自治会長に限定せず、意見を求める方法を検討する。

・多くの自治会からイベントの動員等に対する自粛要請がある中、役場全体の方向性を整理する。

・各課が主管する各種団体、各種団体が実施する行事等は、全町一律の制度から、課題に応じて各自治会が柔軟に選択できる仕組みに改善する。

・役場以外の様々な団体との調整の場を設け、金ヶ崎町全体の省力化を進める。

・自治会連合会と地区生涯教育センターの共催事業について、主催と共催を明確に整理する。

・地域づくりや人づくりに対し、社会教育（生涯教育センター）の事業や役割を見直す。

・地域協働補助金、地域活性化委員会、自治会補助金の有り方について、目的や公平性などの観点から整理を行う。

・地域課題が増加する中、地域で課題を解決するための相談機能としての地区生涯教育センターの役割について検討する。